

乳用牛群検定情報の活用を目的としたパソコンソフトの開発

齊藤武志・野田邦嗣・木村誠司¹⁾ (大分県畜産試験場 ¹⁾佐伯南郡振興局)

Takeshi SARTOU, Kunitugu NODA and Seiji KIMURA : Development of Personal Computer Software for Utilization of Cow Group Official Approval List of Grades

酪農家は検定成績表が数字だけのため、個体乳量や乳質をみるだけで牛群の改良や飼養管理の改善などに対して有効に活用していないことが多い。また、指導員も酪農家毎の検定成績表の膨大なデータを既存する検定成績分析ソフト（社）家畜改良事業団 熊本種雄牛センターが開発）に手入力しなければならず、時間的・労力的に大きな負担となり農家段階までの普及が進まなかった。

そこで、大分県では、牛群・地域別成績の分析ができるプログラムおよび検定成績分析ソフトに個別データを入力できるプログラムを開発したので報告する。

1. 方法

3つのプログラムを以下の方法で開発した。

プログラム1は、検定成績分析ソフトに入力する数値および文字を読み込む独自のパラメータファイルである。

プログラム2および3は、IF文、マクロおよび抽出機能を活用して開発した。

第1図に検定成績帳票データから指導用資料ができるまでのプログラムのフローチャートを示した。

また、この検定成績分析ソフトおよび分析センターで開発したプログラムを起動させるためには、コンピュータがウィンドウズ95以上およびメモリー32メガバイト以上、表計算ソフトとしてロータスおよびエクセルの2種類、専用ソフトに中央コンピュータシステムのフィールドコピーとトリニテートが必要である。

2. 結果および考察

プログラム1の開発により、検定成績帳票データを、フィールドコピーを活用することにより検定成績分析ソフトに必要なデータを読み取れるようになった。

プログラム2の開発により、分析センターに送られてくる検定成績帳票データを加工・分析し、数日後には20カ所の指導機関に送付することが可能になった。

プログラム3は、抽出機能等で必要な数値を自動入力したり、マクロボタンを押すことにより自動で印刷したりして検定農家指導用資料を作成する。実際、他県では

手入力しているので一農家当たり2時間はかかる作業がプログラム3の開発により約10分間で分析し出力するので、指導用資料作成時間を大幅に短縮した。

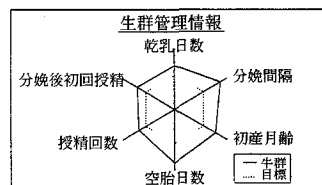
具体的な出力例を第2図に示したが、その主な特徴は、

- 1) 分娩間隔、授精回数等が図表化・グラフ化され、個人の繁殖成績等が一目で把握できる。
- 2) 乳量のピークや乳成分バランスの状態が良くわかり、栄養管理等の改善に役立つ。
- 3) 産次別の補正乳量がわかり、改良の状況等が把握できる。
- 4) 繁殖遅延による経済損失量を計算する。
- 5) 体細胞のランク別成績とその経済損失を計算する。

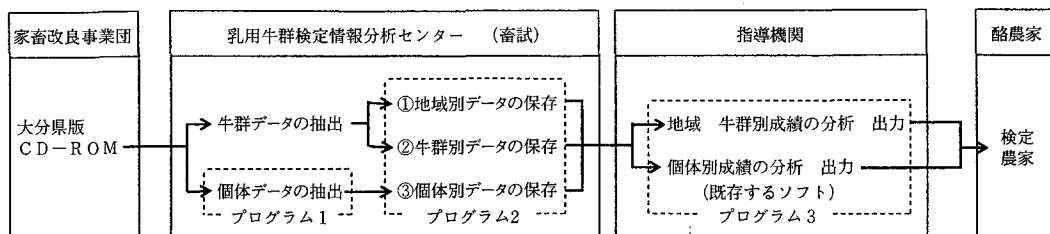
今後の問題点として、エクセルおよびロータスの2つの表計算ソフトを使用するのでエクセルに統一するとともに、検定成績データを迅速にデータバックするためインターネットを活用する準備を現在進めている。

個体成績表

No	牛名	性別	F %	P %	乳量	体細胞	P %	F %	P/P	305日		産次	産次	産次	産次	産次	産次	産次	
										乳量	体細胞								
001
002
003
004
005
006
007
008
009
010
011
012
013
014
015
016
017
018
019
020
021
022
023
024
025
026
027
028
029
030



第2図 具体的な出力例



第1図 フローチャート